

## 2013 年度事業報告

### 「分かち合う暮らし」—分かち合う経験・こころ・未来

第四次3カ年計画の2年目となる2013年度は、上記のテーマのもと、各活動を実施しました。

海外プログラムの各支援地では、「経験・こころ・未来」を現地の人たちと分かち合うように努めながら、プログラムを進めてきました。2007年度から始まったカンボジアの訓練センターへの支援も、センターの技術力、経営能力の向上に伴いフェアトレードのパートナーとしての次のステップへと進めることができました。ネパールでは5年ぶりにスタディツアーを実施し、参加者たちが現地で多くの学びを得るとともに、村人たちとも交流をおこないました。ラオスにおいては、現地訪問で経済成長に伴う様々な問題に直面する村の様子を実際に見ておくことができました。また、新規プログラム（カンボジア）は、2014年度からの開始に向けて準備を進めました。フィリピンの台風被害の被災者であるパナイ島、ネグロス島の住民（バナナ生産者など）への緊急・復興支援もおこないました。

国内では、外国人に対する排外的な動きが闊歩する状況に対して、これまでにつながりのある団体などと協力して、多文化共生のイベントや連続学習会を実施しました。地球の木講座もアーサー ピナードさんを迎え、多くの参加者を得て開催することができました。地球の木の活動を紹介しながら、生活クラブや地域のデポー、イベントなどで、「しあわせ分かち合いクラフト」の販売をさらに広めました。

### ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 海外支援プログラム ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

#### ●ラオス● 村人の森を守る権利と生活改善の応援をする

プログラム名	ラオスの森林と農業プログラム
支 援 地	ラオス サワナケート県（アサポン郡・ピン郡）
現地パートナー	日本国際ボランティアセンター（JVC）・ラオス サワナケート県農林局
事 業 費 計	669,658 円

サワナケート県は、南北、東西の幹線道路が交差する利便性から海外企業の進出が多く、土地収用をめぐって住民との軋轢も起こっている。特に支援地のピン郡、アサポン郡ではベトナム、インド、タイなどの植林企業の進出が目立ち、既に多くの企業が土地を取得している。これまで森の恵みに支えられてきた村人にとって森を失うことは、暮らしが成り立たなくなることを意味する。村人の安定的な食糧確保を目指して、村人主体の自然資源の持続的管理や農業技術の導入、現金収入の確保などの支援を引き続きおこなっている。

JVC ラオスの活動も第2フェーズ2年目となり、24村に拡大して展開されている。2012年度から調査を始めた大型家畜銀行は、2村で牛銀行として試験的に始まり実践者との間で運営のルール決めが進んでいる。ブルー族\*出身のスタッフが4名に増え、支援対象村の多くを占めるブルー族の村で、パイプ役として活躍している。

\*ブルー族：サワナケート県に多く住む少数民族

## ●支援内容（JVCの支援内容）

### <森林保全>

- ・村人が村内の森林を利用目的別に分類、登録する「参加型土地利用計画」が2村で開始された。
- ・森林に関する村人の意識啓発のため、ブルー族の若者と協働して、身近な村の問題を題材にしたドラマを上演した。
- ・森や土地に関する法律をイラストで図解したカレンダーを他団体と協力して制作、村人に研修をおこなった。
- ・自然資源管理の活動として、魚保護地区設置のための調査を新たに2村で始めた。また、村の共有林設置に関しては、近隣の村の共有林を訪問するスタディツアーを実施した。

### <自然農業・生活改善>

- ・SRI(稲の幼苗1本植え)の実践モデル農家を養成し、各村内で実践者拡大に努めた。有機肥料の講習を実施。
- ・米銀行は、8村でおこなわれ289家族が不足時に米を借りた。運営方法について意見交換の機会も設けた。
- ・牛銀行を2村で開始。9家族がメス牛の貸し出しを受けた。ヤギ銀行は3村のうち2村で終了した。
- ・2村でラタン栽培の研修を実施。15名が参加し、食用や、家具の材料として現金収入を得た。
- ・5村で10基の深井戸の掘削を支援。210家族が清潔な水を飲用できるようになった。

## ●国内での活動

- ・JVCラオス現地ラオス人スタッフを招いての報告・交流会を実施した。(4/12)
- ・JVCラオス現地駐在員の一時帰国報告会実施した。(9/2)
- ・ラオス現地訪問調査(2/19-25)と現地訪問報告会(3/29)を実施した。
- ・ラオスプログラムの活動をわかりやすく説明するパネルを制作した。

## ●カンボジア ● 手に職をつけ未来へ向かう

プログラム名	クメールシルクプログラム
支 援 地	カンボジア タケオ州
現地パートナー	VCAO タケオ訓練センター、アン村生産者
事 業 費 計	236,932 円

カンボジアでは、首都プノンペンのもとより、農村地域でも住民の経済格差はどんどん広がり、「お金がもの言う社会」となっている。海外からの投資も増え、工場が次々と郊外に建設されている。タケオの近くにも大規模な縫製工場ができ、若い女性たちを中心に働きに行く人たちがあとを立たない。「安い労働力」となった女性たちが縫製工場で作る「ファストファッション」の製品は、日本の私たちの周りにも溢れている。現地の状況と私たち日本の暮らしとの関わりを、クメールシルクを切り口に伝えてきた。

VCAO 訓練センターでは、2007年より、伝統的な織物を学び、織ることによって、家計を助けながら、学校を続けられるようにと支援を続けてきたが、8年目を迎え、技術力、マーケティング力、マネージメント力ともに順調に向上しているのに加え、販路の拡大や、カフェの開店などセンターとしても様々な試みをおこない自立を考えていることなどから、2013年度で終了し、今後は「買う」ことで支援していく形（フェアトレードでの交流）に移行する。また「織物の村」アン村では、井戸の水が汚染され、飲み水として使えないという状況がある。環境にやさしく、伝統的な織物復活の要素も持つ織物生産を実施するために安定した原料（天然染料）の入手、確保に向けて調査をした。その結果、近隣村で天然染料を作っていたという経験者を探し出すことができ、今後に向けての大きな一歩となった。安定した自然染色の製品作りが少しずつ実現しつつある。村での状況を聞き取るうちに、村

人たちの「借金」の問題も大きく浮かび上がってきたため、生産者が自分たちで運用する「村人ファンド」の可能性を探るための調査を開始した。

- \* ファストファッション：最新の流行を採り入れながら低価格に抑えた衣料品を、短いサイクルで世界的に大量生産・販売するブランドやその業態。

## ●支援内容

### <VCAO 訓練センター>

- ・ 訓練センターへ糸（絹）の供給及び少女たちの昼食補助。（4月～7月）
- ・ 注文生産を実施。
- ・ 技術、デザインの指導・アドバイス。

### <アン村生産者>

- ・ 生産者と協力し天然染料の入手確保と自然染色の製品開発を実施。
- ・ 専門家を派遣し、伝統的なデザインを取り入れた製品開発。
- ・ 生産者と村の状況調査（聞き取り）。（7月、12月）

## ●国内での活動

- ・ WE ショップつるみで報告会を実施した。（3/15）
- ・ 恵比寿三越のフェアトレード企画（2/5-18）でプログラムの話をしながら販売をおこなった。
- ・ 支援者との現地訪問ツアーは、スケジュールが合わず、実現にはいたらなかった。

## ●ネパール ● 教育の現場から幸せにつながる地域づくりを

プログラム名	幸せ分かち合いムーブメント
支 援 地	ネパール カブレパランチヨーク郡 マンガルタール行政村・カルパチヨーク行政村
現地パートナー	SAGUN（サグン）
事業費計	1,854,485 円

2008年に民主共和国になったネパールだが、新憲法を制定できず現在に至る。出稼ぎなどで富を蓄える人々がいる一方、依然として、多くの国民は貧困から脱却することができず、経済的格差は広がるばかりである。最も支援を必要とする人びとのエンパワメントや社会の変革を実現させるためには、少数民族・低カースト・若者・女性が地域社会に参画し、様々な決定にかかわることが肝要である。

「幸せ分かち合いムーブメント」は、「幸せでなければ、『開発』ではない」という基本理念のもと、真の参加型開発のあり方を探求し広めるため、マンガルタール村からスタートし、周辺の地域にも広げていくことを意図している。

気候変動の影響、都市や外国への若者人口の流出、環境破壊、都市と村との格差の拡大など、ネパールの村は今、大きく変わりつつある。そのような中で、教育の機会を阻まれた歴史を持つ少数民族の住むマンガルタール村で実施された各プログラムは、ほぼ順調に進んでいる。マンガルタール村の高校には、近隣の村々から半数以上の生徒が通っている。周辺の村に住む生徒たちから各村にこの活動は伝わっており、まずは隣のカルパチヨーク村に広げていくことにより、さらに、「幸せ分かち合い」を広めることができた。調査とスタディツアーにより、カルパチヨーク村の人々との関係を構築することもできた。また、この村の状況はマンガルタール村より厳しく、課題が多いこともわかった。

## ●支援内容

### <教育支援>

- ・新たに8人の新11年生を選び、12年生と併せて16名の奨学生の学費を支援した。
- ・作文コンテストを実施(3回)。優勝者の作品を村の季刊誌「ロシ・ラハール」に掲載した。
- ・マンガルタール高校の図書室に新たに103冊の高校教科書を購入した。教科書を買えない生徒たちに貸し出している。ラジャバス中学校の図書室にも小中学生用読み物50冊を購入した。
- ・11年生のカトマンズへの校外研修実施した(参加者55人)。

### <生活改善支援>

- ・カルパチョーク村から9名、地域ごとに情報を集める地区ファシリテーターを選出した。
- ・収入創出プログラムで農民に融資した資金は順調に回転しており、今年度は4グループの38名が参加した。参加者たちは、野菜栽培について話し合う機会ができ、教育や生活向上に収入を役立てている。
- ・カブレ郡で初めて結成された協同組合の一つチョルワ女性協同組合は、他地域の協同組合との経験交流を行った。マンガルタール村の母親グループが協同組合として登録した。
- ・ユースクラブを始め村人総動員で植林を行った。場所の選定に配慮し、家畜放牧禁止の罰金制度を設けた。

### <ムーブメント推進>

- ・季刊誌「ロシ・ラハール」15~16号が発行された。記事は、ロシ地域の環境問題や開発についてなど、「幸せ分かち合い」のコンセプトを地域に広げる重要なツールとなっている。
- ・「マンガルタールともだちキャンペーン」を継続。日本の登録メンバー約130名(指定寄付者も含める)と村人のメッセージの交換を行っている。横浜隼人高校の生徒たちからのメッセージも届けた。

## ●国内での活動

- ・ネパールのワークショップ、展示などを実施した(鎌倉女学院、横浜隼人高校、いそご国際フェスタ、大和桜丘学習センター)。
- ・現地調査(8/12-21)でカルパチョーク村の状況を調査した。調査報告会を実施した(9/28)。
- ・ネパール・スタディツアーを実施した(2/11-19 参加者6名)。
- ・「ロシ・ラハールを読む会」を6回開催し、現地の情報を共有した。
- ・村だより4号を発行し、寄付を呼びかけた。

## ■■■■■■■■■■ 緊急支援・国内事業・組織運営 ■■■■■■■■■■

### ■緊急支援

- ・フィリピン台風被害の被災者であるパナイ島、ネグロス島の住民(バナナ生産者など)へ緊急・復興支援を実施した。
- ・東日本大震災への復興支援として、NPO法人Tree Seedへの支援を継続した。

### ■相互の自立のための交易事業

- ・イベントやお祭りなどで地球の木の活動を紹介しながら、「幸せ分かち合いクラフト」の販売をした。
- ・カンボジアの生産者支援団体と協力して、地球の木オリジナルフェアトレード品の生産・販売を実施した。
- ・生活クラブ(共同購入、デポー)、福祉クラブの協力を得て、販売をおこなった。
- ・百貨店(恵比寿三越)のフェアトレードイベントで販売をおこなった。
- ・クラフト販売に関する販売管理・在庫管理のシステム、運用整理をおこなった。

## ■社会教育事業

### <出前講座>

- ・出前講座を実施した。中学校2校、高校2校、地域2回（計6回）
- ・地域のイベントなどでワークショップや国際協力の活動紹介をおこなった。
- ・新しく開発したワークショップ「未来の食卓」を発表した。

### <地球市民活動>

- ・アーサー ビナードさんを講師として、地球の木講座「せいかつごっくん」を開催した。（1/31 参加者 90名）
- ・第1回国内スタディツアー「農的暮らしってなんだろう？」を実施した。（11/2-3 山梨県白州、長野県富士見町、原村周辺 参加者 8名）
- ・ラオス人アーティストに「ラオス森の絵本（仮称）」制作の協力を依頼。田島征三さんと絵本制作に向けての協議を続けた。

### <多文化共生>（参加したイベント、学習会）

- ・あーすフェスタかながわ 2013（企画から参加 来場者 19,000人）
- ・南北コリアと日本のともだち展（実行委員として絵画展開催に協力）
- ・Korea×Japan かながわユースフェスタ 2013（ともだち展で参加 来場者 8,456人）
- ・外国人学校の子どものための絵画展（実行委員会に参加 来館者 12,600名）
- ・連続学習会「かながわ『共に生きる』学習会」（11/17、1/26、3/15 のべ参加者数 138人）

### <たうん（地域）活動>

- ・たうん連絡会を毎月開催し、勉強会や情報交換を活発におこなった。
- ・カンボジア、ラオスのプログラム紹介パネルを制作した（9/10-27 JICA 横浜ギャラリー企画展示 日本・ASEAN 友好協力 40周年記念「東南アジアとともにあゆむ未来」）。
- ・支援地クイズを作成した。
- ・イベントなどへ参加し、地球の木の活動紹介をおこなった。  
かながわ湊フェスタ（5/26）、鎌倉市民活動の日フェスタ（5/10-12）、フォーラムアソシエ文化祭（9/28）、かまくら国際交流フェスティバル（10/6）、ひらつか市民活動センターまつり（9/29）、大黒まつり（孝道山 10/31、11/1）、カッコーフェスタ（大和 11/9-10）、かまくら地下ギャラリー（12/13-19）

### <その他販売>

- ・「国際協力カレンダー」の販売をおこなった。（生活クラブ生協、福祉クラブ生協の協力を得て 900部販売）
- ・開発教育教材「マジカルバナナv3」の販売をおこなった。（本体 85冊、CD-ROM68枚、カード 15組を販売）
- ・イベントで活動のアピールをしながら食販などをおこなった。（グローバルフェスタ、あーすフェスタでのチヂミ販売など）

## ■広報活動事業

- ・カラー版の会報誌を4回発行した。
- ・Facebook ページを立ち上げ、イベントの案内や活動報告に活用した。

## ■ネットワーク

### 【理事・運営委員などとして運営に参加する団体】

理 事：横浜 NGO 連絡会（YNN）、かながわ国際交流財団（KIF）、かながわ生き生き市民基金（理事、評議員）

運営委員：フォーラム・アソシエ、かながわ復興支援ネットワーク（YNN）

委 員：キララ賞選考委員会

実行委員：「あーすフェスタかながわ 2013」実行委員会、「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会、

「東日本大震災復興まつり」実行委員会、「外国人学校の子どもたちの絵画展」実行委員会  
その他：KOREA こどもキャンペーン（呼びかけ団体）、あーすネット幹事会（幹事）、東日本大震災復興・支援ネットワーク（幹事）、ビビンバネット（参加団体）

#### ■組織運営

- ・パソコンの新規の購入（デスクトップ2台）および、イーパーツから寄与を受け（デスクトップ2台、ノート2台）事務環境改善とセキュリティ強化（XP対応）に取り組んだ。
- ・組織改革、役割の見直しをおこなった。
- ・ボランティアの定期的な説明会を開始した。
- ・地球の木が抱える課題解決に向けて、財政の安定化、会員拡大（会費未納者対応）に対する取り組み等をおこなった。

#### 地球の木会員数（2014年3月末日）

正会員：161名  
サポート会員：604名（内団体会員5）  
合計：765名

#### 2013年度入退会者数と主な退会理由

入会者：8名  
退会者：119名  
（内会費未納者対応にて退会90名）  
・活動整理・経済的理由・個人的理由